小中高校生を対象とした
ネットで知り合った他者との交流における
リスクおよびリスク回避行動の
発達的変化についての検討

北海道大学大学院教育学院

発達心理学研究室博士後期課程

佐藤奈月

問題｜ネットで「出会う」こと

■インターネットを通して見知らぬ他者と出会うこと

- 15～19歳の**28.9%**が，ネットで知り合った人と会話やメールをよくしている（内閣府,2017）
- 小学6年生の**28.9%**は見知らぬ人と交流があり，**2.0%**は対面経験があった（鈴木・中山，2021）

■禁止・制限されること

- 携帯・ネットを媒介として面識のない他者と出会う青少年の行為は**解決すべき教育問題**として教師や大人によって指導されてきた（香川，2016）
  - ➢ 子どもは「引け目」を感じて大人に**ネット上の出会い経験を隠す**
- 子どもは大人の知らないアプリに移行する(Boyd,2014)

保護者・教師は子どものネットを通した交流の実態を十分に把握できていない

問題｜リスク強調の弊害

■「リスク」啓発教育が陥る問題

- ネットでの知らない人とのやりとりの危険性について学校などの他者・組織を通して認知した高校生のうち，**17.7%**が**「ネットの悪い面ばかりが強調されすぎていて反発を感じた」**と回答（橋元他，2015）

■子どもは「無知」か？

- ネットを通して見知らぬ他者と関わる高校生女子は，ネットで他者と知り合うことの**リスクや危険性について無知なのではない**
- 危険な目に遭いそうな**他者との関わりを切りながら**，親密になる他者を選んでいた（佐藤・加藤，2020）

ネットを活用する当事者は，リスク回避の「実践知」を持っている？

問題｜リスク回避スキル

■**大学生を対象としたリスク回避スキルの研究**

- **トラブル回避スキル，問題対処スキルが高い者は**低い者よりも，SNS コミュニティの他者との揉め事を回避し，**高い快適性を享受**している（石川，2014）
- 社会的スキル・コミュニケーションスキルが高い者のほうがネット上の**トラブル**（**①個人情報の漏洩，②誹謗中傷・炎上，③嫌がらせ・迷惑行為**）**に対処できる**と捉えていた（石川，2017）

小中高校生のそれぞれの発達段階でどのようなリスクが起きやすいか？
それらのリスクを回避するためのスキルとは何か？

問題｜誰がリスク状態にあるか？

■ネットで見知らぬ人と知り合うことの関連要因

- **友人関係の要因**
  - 学校での所属感の低さ（青山，2017）
  - 学校の友達へのソーシャルサポートの知覚の低さ（鈴木・中山，2021）
- **家族関係の要因**
  - 家族凝集性の低さ（千葉他，2014）
  - 親との関係に問題があること（Wolak, Mitchell & Finkelhor，2003）

友人関係・家族関係が悪い子どもは，特にどのようなリスクに遭いやすいか？

目的

① 小中高校生はどのような**リスク**を経験しているか？

② 小中高はどのような**リスク回避行動**を取っているか？

③ **高リスクな生徒**はどのような生徒か？

研究の組み立て

	目的① **リスク経験**	目的② **リスク回避行動**	目的③ **高リスクの特徴**
研究1	**自由記述**	**自由記述**	
	尺度化		
研究2		**性差・発達差** の分析	**発生・頻度** の分析

研究1｜リスク経験

	目的① **リスク経験**	目的② **リスク回避行動**	目的③ **高リスクの特徴**
研究1	**自由記述**	自由記述	
	尺度化		
研究2		性差・発達差 の分析	発生・頻度 の分析

研究1｜方法

方法：

小・中・高校生へのアンケート調査（Googleフォームで実施）

研究協力者：

小学生294名（男子149名，女子134名，その他11名）

中学生228名（男子115名，女子106名，その他7名）

高校生235名（男子171名，女子51名，その他13名）

※「その他」には，「どちらともいえない」・「答えたくない」・未回答の者を含む

研究1｜リスク経験

質問項目：

1）自分がネット上で知らない人と関わる時に嫌な思いをした・危険を感じた時

2）友だちや知り合いが嫌な思いをした・危険を感じた時

分析対象：

1）自分が経験したトラブル：**54件**

（小学生18件，中学生16件，高校生20件）

2）友だちや知り合いが経験したトラブル：**52件**

（小学生22件，中学生19件，高校生11件）

分析方法：

KJ法で分類→カテゴリを元に尺度項目を作成

研究1｜リスク経験

分類結果：

No	カテゴリ	具体的な記述例
1	悪口・暴言	・ゲームのチャットで悪口をいわれた ・ゲームで知らない人に「生きてる価値ない」と言われた
2	個人情報の漏洩	・ゲームの掲示板にLINEのアカウントのQRコードを貼られていた ・個人情報を知らぬ間に知られていた(家、本名など)
3	金銭トラブル	・友達の友達がフォートナイトで仲良くなった大学生にゲームのギフトを買ってもらったと言っていた
4	会う誘い	・実際に会おうと言われた ・知らない人からTikTokで、会って話がしたいと書かれた
5	性的誘い	・インスタのDMで性的に害のある写真や発言が送られてきた ・パパ活に誘われたりした ・触らせてとか言われた
6	ストーカー被害	・twitterでネトストされてた
7	詐欺・乗っ取り	・Instagramで１万円預ければ２０万円になって帰ってくるという詐欺にあっていた ・知り合いから来たDMのリンクに飛んだら、インスタが乗っ取られた

研究1｜リスク経験

分類結果：

no	項目	カテゴリ
1	オンラインで，知らない人に悪口を言われたり嫌なことをされたりしたことがある	悪口・暴言
2	オンラインで，知らない人に住んでいる場所や名前を聞かれたことがある	個人情報の漏洩
3	オンラインで，名前や学校などの個人情報を他の人にばらされたことがある	個人情報の漏洩
4	オンラインで，知らない人とお金のトラブルになったことがある	金銭トラブル
5	オンラインで，知らない人に会おうと誘われたことがある	会う誘い
6	オンラインで交流している人と，実際に会ったことがある	会う誘い
7	オンラインで交流している人に，顔写真を送ってと言われたことがある	性的誘い
8	オンラインで交流している人に，顔写真を送ったことがある	性的誘い
9	オンラインで交流している人に，身体の写真を送ってと言われたことがある	性的誘い
10	オンラインで交流している人に，身体の写真を送ったことがある	性的誘い
11	オンラインで，知らない人から身体の写真が送られてきたり，性的なことを言われたりしたことがある	性的誘い
12	オンラインで，知らない人に監視されたり，つきまとわれたりしたことがある	ストーカー被害
13	自分のSNSやゲームのアカウントが，知らない人に乗っ取られたことがある	詐欺・乗っ取り
14	詐欺サイトを開いてしまったことがある	詐欺・乗っ取り

研究1｜リスク回避行動

	目的① **リスク経験**	目的② **リスク回避行動**	目的③ **高リスクの特徴**
研究1	自由記述	**自由記述**	
	尺度化		
研究2		性差・発達差 の分析	発生・頻度 の分析

研究1｜リスク回避行動

質問項目：

嫌な思い・危険な思いをしないようにしているためにしている**対策や工夫**

分析対象：

自由記述**335件**（小学生108件，中学生121件，高校生102件，学年未回答3件）

分析方法：

KJ法で分類→カテゴリを元に尺度項目を作成

研究1｜リスク回避行動

分類結果：

no	項目	カテゴリ
1	自分の住んでいる場所や本名をネット上に書かない	個人情報を言わない
2	SNSやゲームは本名ではないニックネームで登録する	匿名にする
3	自分や友だちの写真や動画をネット上に投稿しない	顔出しをしない
4	フィルタリングをかけて，危ないサイトに入れないようにしている	親の管理
5	家族でスマホやオンラインゲームをするときのルールを決めている	親の管理
6	SNSを鍵アカウントにして，知らない人に見られないようにしている	鍵をかける
7	コメントや投稿をするときに，相手が嫌な思いをしないか文章を見直す	言葉遣い
8	オンラインで，知らない人は全員深く関わらないようにする	深く関わらない
9	相手のプロフィールやフォローしている人から，大丈夫そうだと思った人とだけ仲良くなる	親しくなる人を選ぶ
10	オンラインで知らない人とかかわるときに，変だなと思ったら通報をする	通報する
11	オンラインで知らない人とかかわるときに，変だなと思ったらブロックやミュート，フレンド削除をする	関係を断つ
12	オンラインで知らない人とかかわるときに，変だなと思ったら無視をする	無視する
13	オンラインで知らない人とかかわるときに，変だなと思ったらアプリを消す	アプリを消す
14	オンラインで知らない人とかかわるときに，変だなと思ったらアカウントを消して作り直す	アプリを消す
15	オンラインで知らない人とかかわるときに，変だなと思ったら家族に相談する	家族に相談する
16	オンラインで知らない人とかかわるときに，変だなと思ったら先生に相談する	周りの人に相談する
17	オンラインで知らない人とかかわるときに，変だなと思ったら友だちに相談する	周りの人に相談する
18	オンラインで交流している人とは会わない	会わない

研究1｜考察

1. リスクは「会う」だけではない

- 悪口，個人情報漏洩，顔写真・身体の写真送信…
- 対面経験がなくても被害が起こりうる

2. 子ども自身の判断・行動がある

- 個人情報管理，変だなと思った相手をブロックする…
- 子ども自身が自分で判断して身を守る行動を取っている

研究2｜リスク回避行動

	目的① **リスク経験**	目的② **リスク回避行動**	目的③ **高リスクの特徴**
研究1	**自由記述**	**自由記述**	
	尺度化		
研究2		**性差・発達差** の分析	**発生・頻度** の分析

研究2｜方法

方法：

1. 小・中・高校生へのアンケート調査（学校経由で実施）
2. オンライン調査（株式会社マクロミルに委託）

研究協力者：

小学生1140名（男子560名，女子528名，その他52名）

中学生1755名（男子837名，女子835名，その他83名）

高校生434名（男子258名，女子162名，その他14名）

※「その他」には，「どちらともいえない」・「答えたくない」・未回答の者を含む

研究2｜方法

調査項目：

(1)フェイスシート（性別・学年）

(2)オンラインで知らない人とやりとりした経験の有無

(3)オンラインで知り合った友だちの有無

(4)過去1年間の**オンラインリスク経験尺度**（14項目）

（「まったくない」「1回だけある」「2～5回ある」「6～10回ある」「11回以上ある」の5件法）

(5)過去1年間の**オンラインリスク回避行動尺度**（18項目）

(6)オンラインリスク認知尺度（「ネットで見知らぬ人と知りあうことは危険だと思う」など3項目）

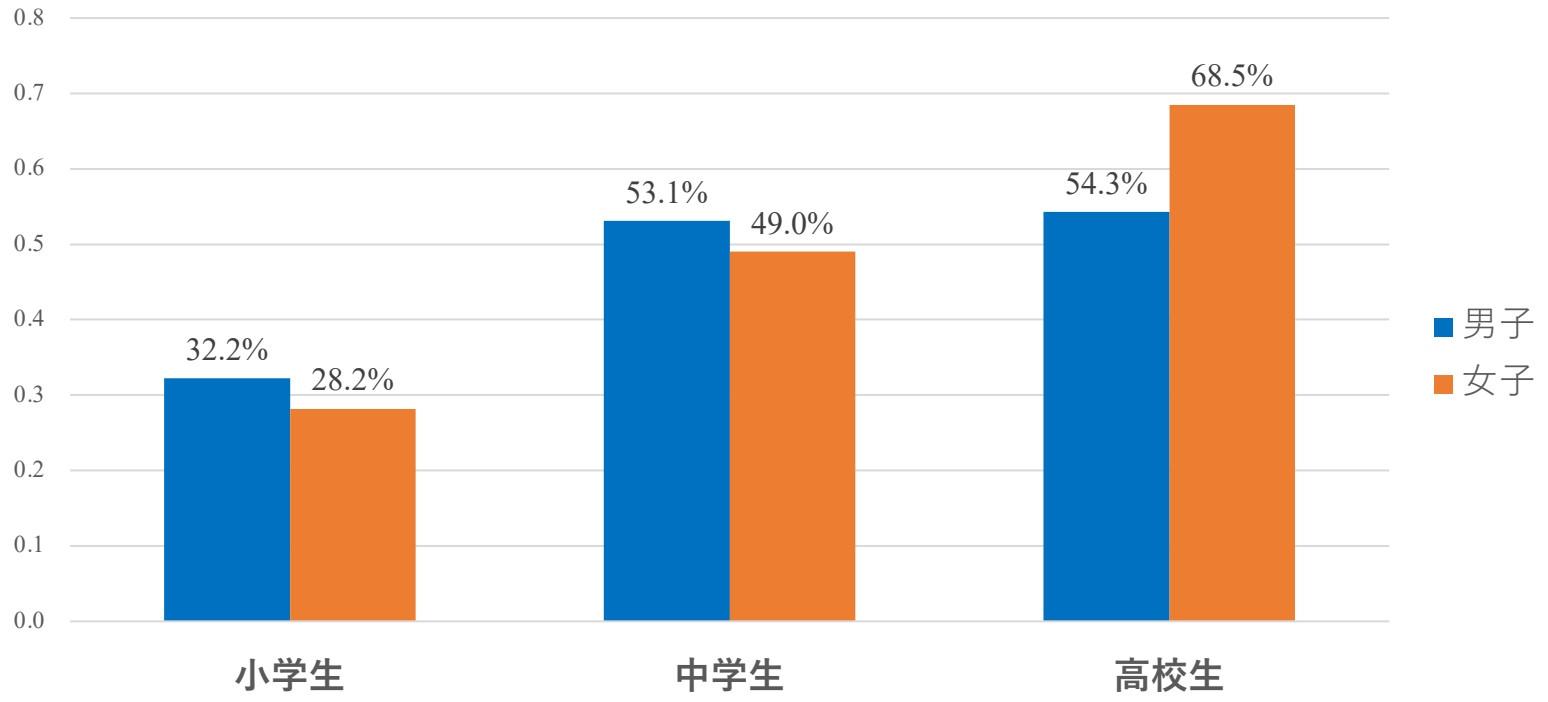
(7)オンライン社会関係資本尺度（寺島・三浦，2013から4項目）

(8)学校などで実際に会っている友だちに対する居場所感尺度（石本，2010から4項目）

(9)家が安心できるか（1項目）

研究2｜やりとり経験

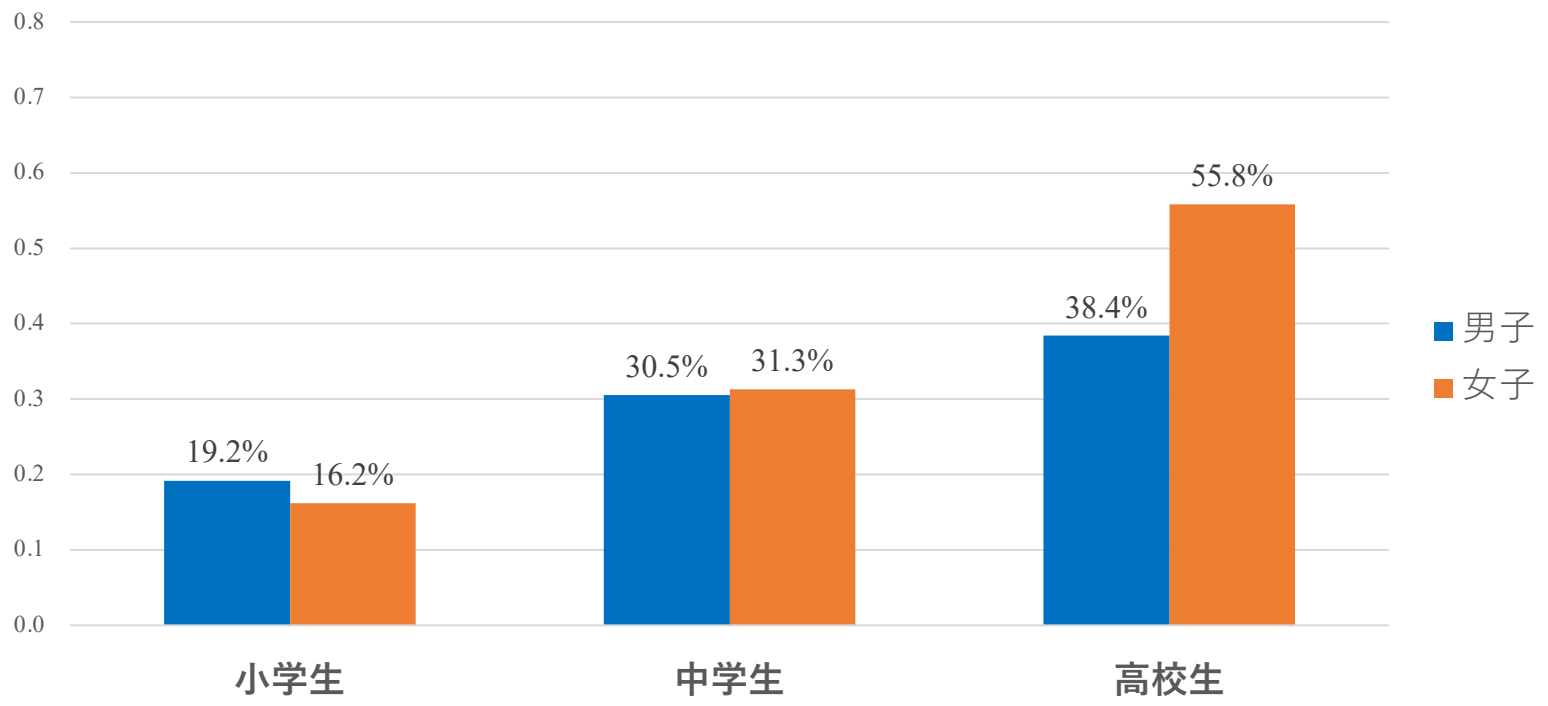
オンラインで知らない人とやりとりをした経験がある子どもの割合



やりとり経験は発達に伴って増える
高校生は男子より女子のほうが経験率が高い

研究2｜やりとり経験

オンラインで知り合った友だちがいる子どもの割合



友だちがいる割合は発達に伴って増える
高校生は男子より女子のほうが経験率が高い

研究2｜リスク回避行動

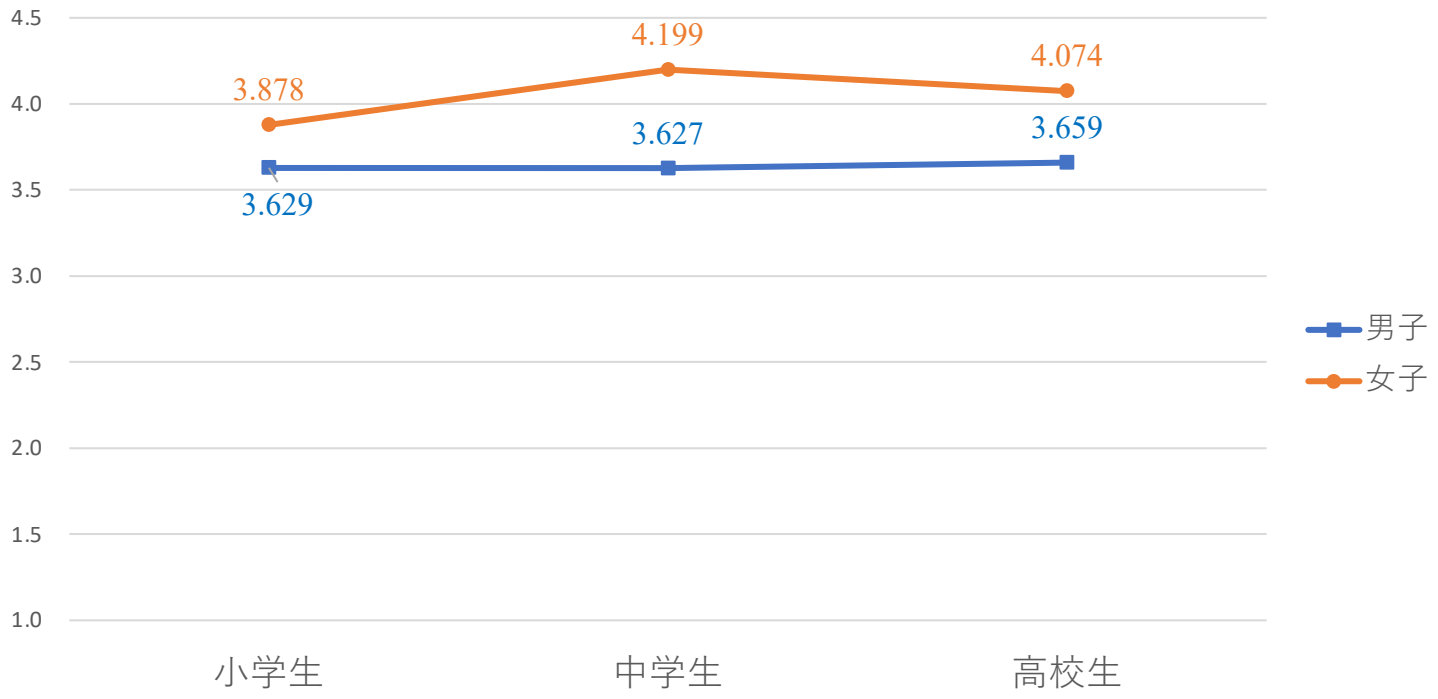
ネットリスク回避行動尺度（最尤法・プロマックス回転）

	項目	F1	F2	F3	F4
第1因子　関係選択（α=.778）					
11	オンラインで知らない人とかかわるときに，変だなと思ったらブロックやミュート，フレンド削除をする	.901	-.017	-.069	-.035
12	オンラインで知らない人とかかわるときに，変だなと思ったら無視をする	.752	-.053	.001	.057
10	オンラインで知らない人とかかわるときに，変だなと思ったら通報をする	.526	.157	-.012	.088
7	コメントや投稿をするときに，相手が嫌な思いをしないか文章を見直す	.406	.088	.316	-.084
9	相手のプロフィールやフォローしている人から，大丈夫そうだと思った人とだけ仲良くなる	.397	-.028	.160	.069
第2因子　相談（α=.750）					
15	オンラインで知らない人とかかわるときに，変だなと思ったら家族に相談する	-.032	.891	-.021	-.026
16	オンラインで知らない人とかかわるときに，変だなと思ったら先生に相談する	-.138	.722	-.012	.197
17	オンラインで知らない人とかかわるときに，変だなと思ったら友だちに相談する	.245	.520	-.074	-.041
5	家族でスマホやオンラインゲームをするときのルールを決めている	.087	.428	.179	-.107
第3因子　個人情報保護（α=.797）					
3	自分や友だちの写真や動画をネット上に投稿しない	-.096	.065	.837	.015
1	自分の住んでいる場所や本名をネット上に書かない	-.014	-.041	.831	.022
2	SNSやゲームは本名ではないニックネームで登録する	.155	-.065	.580	.003
第4因子　アカウント削除（α=.809）					
14	オンラインで知らない人とかかわるときに，変だなと思ったらアカウントを消して作り直す	.031	-.048	.024	.896
13	オンラインで知らない人とかかわるときに，変だなと思ったらアプリを消す	.051	.109	-.004	.682

因子間相関				
F1	-	.466	.550	.386
F2		-	.327	.624
F3			-	.243

研究2｜リスク回避行動

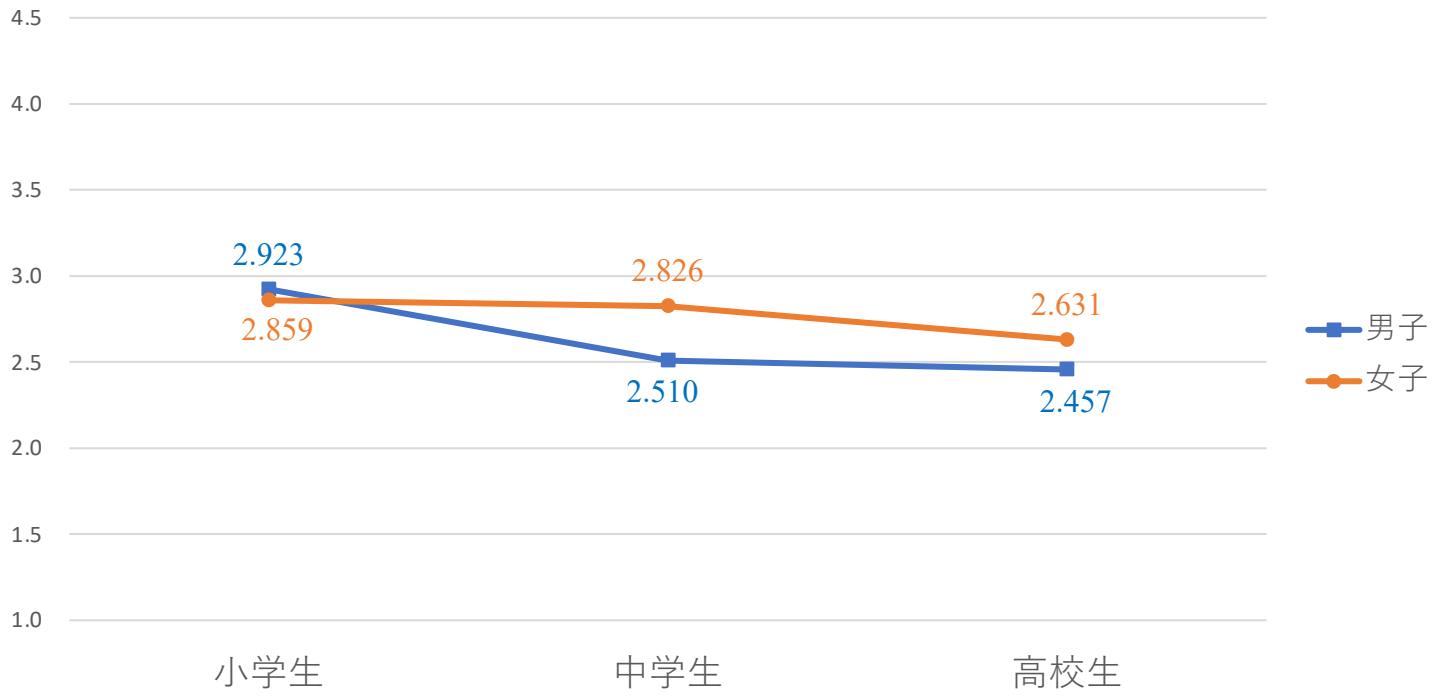
「関係選択」因子の平均得点



男子より女子のほうが「関係選択」をしている

研究2｜リスク回避行動

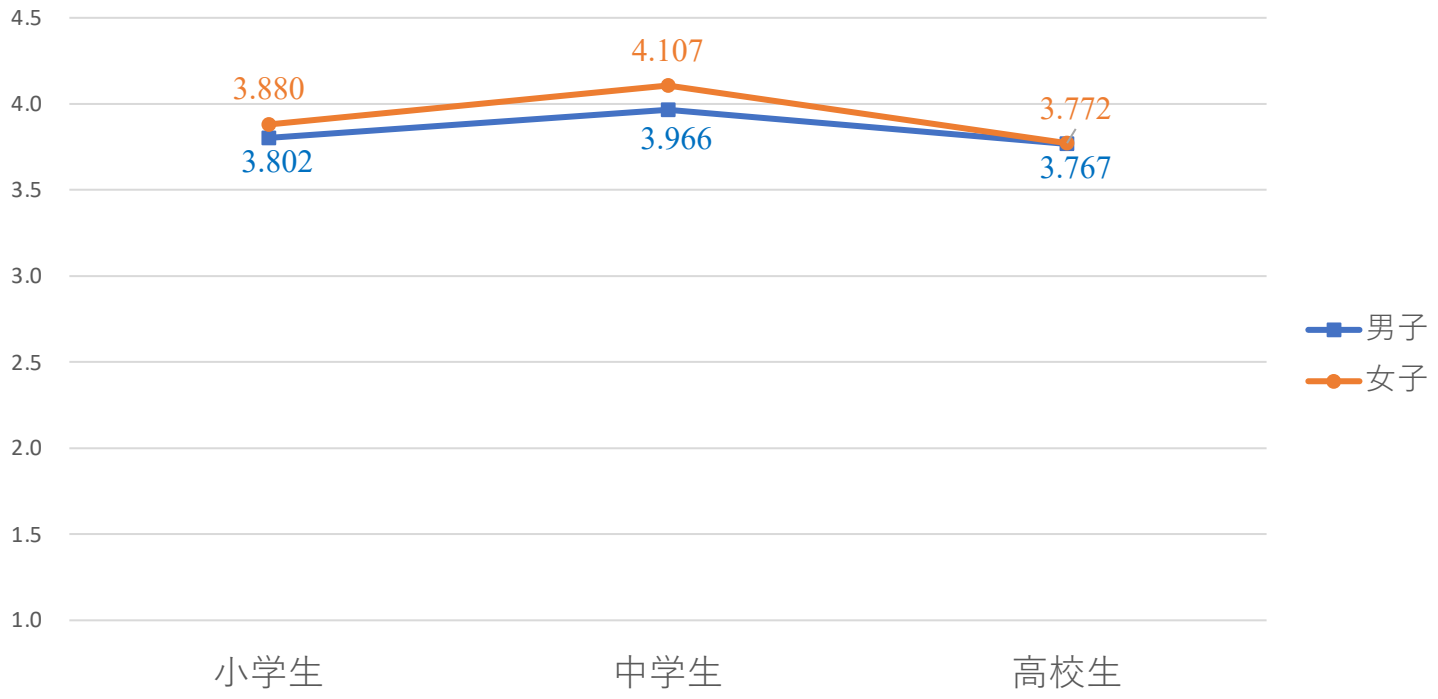
「相談」因子の平均得点



中学生・高校生男子は「相談」をしにくい

研究2｜リスク回避行動

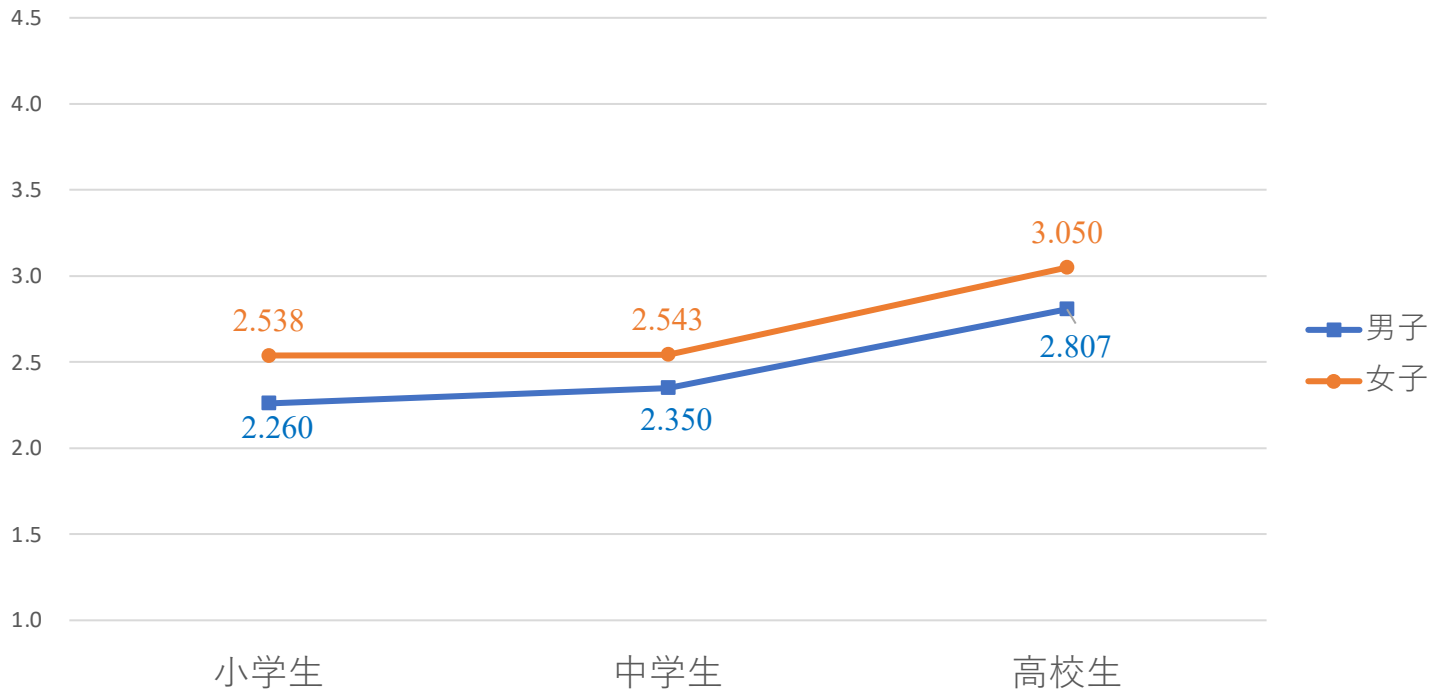
「個人情報保護」因子の平均得点



高校生になると「個人情報保護」をしにくくなる

研究2｜リスク回避行動

「アカウント削除」因子の平均得点



男子より女子のほうが「アカウント削除」をしている
小学生・中学生より高校生のほうが「アカウント削除」をしている

研究2｜リスク回避行動

1. **リスク回避行動の性差**
   ① **「関係選択」，「アカウント削除」**
   - **男子より女子**のほうが多く行っている

   ② **「相談」**
   - **中学生以上の男子**は行いにくい

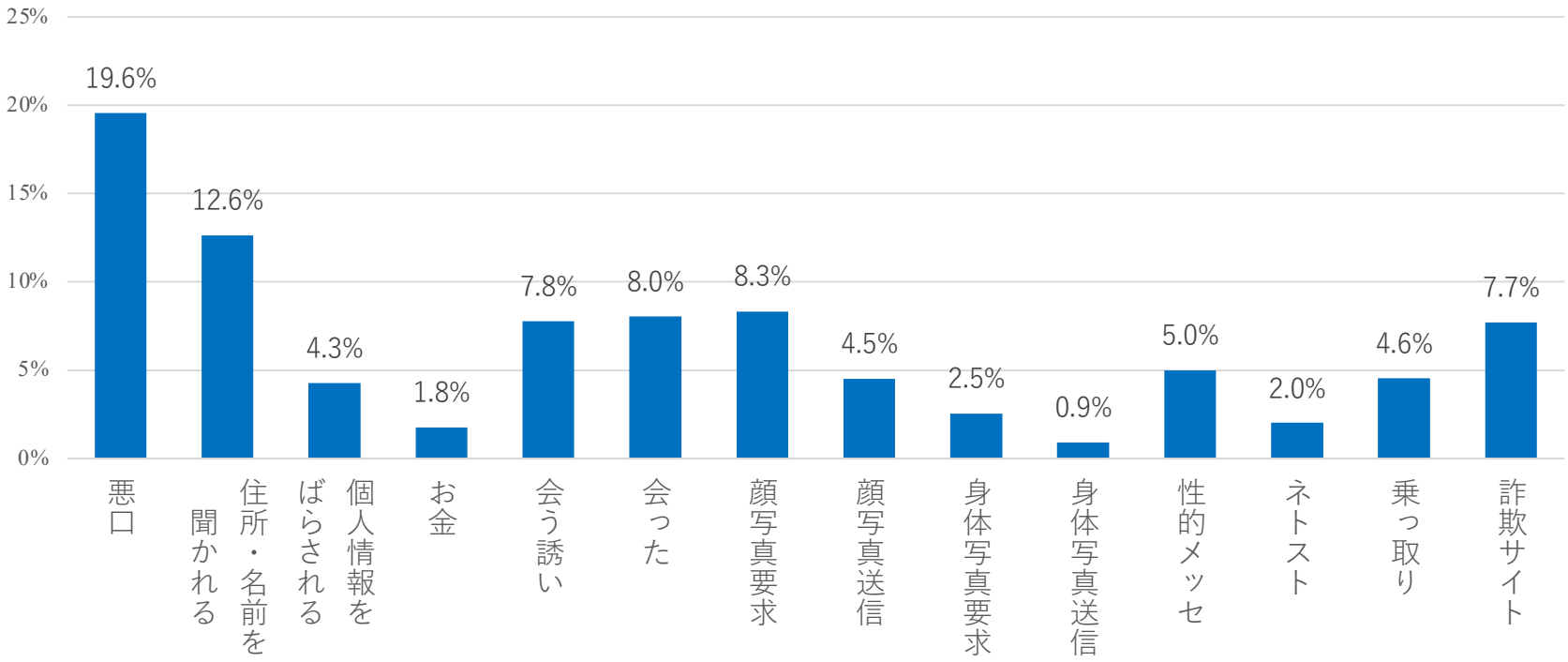
2. **リスク回避行動の発達差**
   ① **「個人情報保護」**
   - **高校生**になると行いにくい

研究2｜高リスクの特徴

	目的① **リスク経験**	目的② **リスク回避行動**	目的③ **高リスクの特徴**
研究1	自由記述	自由記述	
	尺度化		
研究2		性差・発達差 の分析	**発生・頻度** の分析

研究2｜発生・頻度の分析

ネットリスクの経験率（過去1年に1回以上、やりとり経験なしの群も含む）



トラブルに遭っているのは一部の子ども

研究2｜発生・頻度の分析

発生の有無に関する分析（正の値＝回数が0回になりやすい＝初発確率を下げる）

	1		3		5		6		7		8		9	
	悪口を言われる		個人情報をばらされる		会う誘い		会った		顔写真要求		顔写真送信		身体写真要求	
性別ダミー					-0.463	*			-1.067	***	-1.089	***	-1.418	***
小学生ダミー	-1.091	***			0.805	**	0.574	*	1.281	**			3.652	***
中学生ダミー	-0.480	***			0.642	**							0.883	**
関係選択因子	0.004	*												
相談因子					0.258	*			0.229	*				
個人情報保護因子	0.002	*	0.300	**	0.183	*	0.235	**	0.233	**	0.245	*		
アカウント削除因子														
友人居場所感									-0.193	*				
家の安心感	0.250	***	0.299	**	0.193	*	0.289	***	0.230	**	0.292	**		
リスク認知			0.276	*	0.311	**	0.524	***			0.491	***		
社会関係資本	-0.353	***	-0.440	***			-0.345	***						

- 男子より女子のほうが，**性的誘い**の発生リスクが高い
- **家の安心感の低さ**は様々なリスクの発生確率を上げる（友達関係は無関係or良いことでリスク増加）
- 「**個人情報保護**」は，顔写真を送信するリスク発生の確率を下げる
- **リスク認知の高さ**は，リスク発生の確率を下げる場合がある

研究2｜発生・頻度の分析

発生の頻度に関する分析（負の値＝発生後の頻度を下げる）

	1		3		5		6		7		8		9	
	悪口を言われる		個人情報をばらされる		会う誘い		会った		顔写真要求		顔写真送信		身体写真要求	
性別ダミー	-0.573	***					-0.627	***	0.311	**			-0.398	*
小学生ダミー	0.265	***			-0.542	***	0.746	***	-1.290	***	-5.610	***	1.090	***
中学生ダミー			-0.409	*	-0.192	*	0.221	*	-0.749	***	-0.777	***	-0.434	*
関係選択因子			-0.459	***	-0.194	***					-0.236	**	0.683	***
相談因子	-0.097	***			-0.207	***			-0.310	***			-0.358	***
個人情報保護因子	0.057	**	0.154	*									-0.166	*
アカウント削除因子	-0.125	***							-0.173	***				
友人居場所感	-0.078	***			-0.103	*								
家の安心感														
リスク認知							-0.303	***					-0.428	***
社会関係資本														

- **家の安心感の低さ**は，リスクの発生に関連するが，頻度の増加には関連しない
- 「**個人情報保護**」は，顔写真送信の初発確率を下げるが，頻度の増加には関連しない
- 「**関係選択**」は，リスクが一度発生した後に頻度を下げる効果がある
- **リスク認知**は，すでに一度発生したリスクの頻度を下げることに効果がない場合がある

研究2｜発生・頻度の分析

1. **家の安心感が低い子どもは様々なリスク発生確率が高い**
   - ただしリスクの頻度（＝継続）には関連していない
2. **リスクの種類によって関連する要因は異なる**
3. **リスクの「発生」と「頻度」に関連する回避行動は異なる**

例）「顔写真を送った」

- 「個人情報保護」で発生を防止できる
- 「関係選択」で頻度を下げることができる

総合考察

1. 「知らない人と知り合う」こと自体は必ずしもリスクではない

- 深刻なリスクを複数回経験しているのは一部の子ども
- その中で深刻なリスクはなにか？それを経験しているのは誰か？を問う必要性

2. 子どもの発達段階やリスクの種類で有効な助言が異なる

- 相談がしにくくなる中高生男子＝「関係選択」など別の方法が有効な可能性

3. リスク教育は発生後の頻度を減らすことに効果が薄い可能性がある

- 「ネットの悪い面ばかりが強調されすぎていて反発を感じた」（橋元他，2015）
  子どもを定量的に説明する
- 大人→子どもに危険性を伝える以外の方法で，子ども自身が様々な
  リスク回避行動を身につけられる教育方法を検討する必要がある

本研究の限界

1. 高校生のサンプルサイズが少ない

- 高校2校で実施→その学校の特性を反映している可能性がある
- オンライン調査→普段からネットに親しんでいる子どもにサンプルが偏る

2. 1時点のデータのため因果関係の推定が難しい

- あるリスク回避行動を取る→リスクが減るか？は1時点のデータだと不足
- 今後，追跡調査を行っていく必要がある

引用文献

- 青山 郁子（2017）．高校生のインターネット上でのコンタクトリスク行動と防御要因・リスク要因の検討　日本教育工学会論文誌，*40*（Suppl），1-4.
- Boyd, D. (2014). It's complicated: The social lives of networked teens. *Yale University Press.*（ボイド,D. 野中モモ訳 (2014). つながりっぱなしの日常を生きる―― ソーシャルメディアが若者にもたらしたもの　草思社
- 千葉 直子・関 良明・堀川 裕介・橋元 良明（2014）．青少年の安全なインターネット利用を実現する家庭の取組みに関する考察　情報処理学会論文誌，*55*（1），311-324.
- 榎本 淳子（1999）．青年期における友人との活動と友人に対する感情の発達的変化　教育心理学研究，*47*（2），180-190.
- 橋元 良明・千葉 直子・天野 美穂子・堀川 裕介（2015). ソーシャルメディアを介して異性と交流する女性の心理と特性　東京大学大学院情報学環情報学研究 調査研究編，*31*，115-195.
- 石川 真（2014). 社会的スキルの違いがネットワーク上の他者との関わり方に及ぼす影響　上越教育大学研究紀要，*33*，11-19.
- 石川 真（2017). ネット上のトラブルを対処するための社会的スキルの傾向に関する研究　上越教育大学研究紀要，*36*（2）, 285-294.
- 石本 雄真（2010）．青年期の居場所感が心理的適応，学校適応に与える影響　発達心理学研究，*21*（3），278-286.
- 香川 七海　(2016).　青少年女子によるインターネットを媒介とした他者との< 出会い>:「ネットいじめ」 言説の興隆期に着目して (特集 子どもをめぐる質的研究）質的心理学研究，*15*，7-25.
- 内閣府 (2017).　平成28年度子供・若者の意識に関する調査　retrieved from https://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/ishiki/h28/pdf-index.html（2023/01/24）
- 佐藤 奈月・加藤 弘通（2020）．高校生女子がインターネット上で知り合った他者と親密になるプロセス　日本質的心理学会第17回大会
- 鈴木 千晴・中山 満子（2021）．小学生におけるオンライン上での見知らぬ人との関わりと知覚されたソーシャルサポート，SNS 利用および孤独感との関連性の検討　パーソナリティ研究，*30*（1），33-35.
- 寺島 圭・三浦麻子 (2013).　SNS 利用はオフライン／オンライン社会関係資本を醸成するか；大学生のmixi利用を事例に　関西学院大学心理科学研究，*39*，59-67.
- Wolak, J., Mitchell, K. J., & Finkelhor, D. (2003). Escaping or connecting? Characteristics of youth who form close online relationships. *Journal of adolescence, 26(1),* 105-119.